

Fujitsu Software

Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition V17.0.3

Systemwalker Centric Managerは、情報システムの運用管理を行うための統合基盤となる商品です。

Systemwalker Centric Manager（システムウォーカーセントリックマネージャー）は、システム運用のライフサイクル（導入/設定～監視～復旧～評価）に従い、ソフトウェア資源の配付、システムやネットワークの集中監視、リモートからのトラブル復旧などの優れた機能で運用管理作業を軽減します。また、このライフサイクル管理によりマルチプラットフォーム環境やインターネット環境など、最新のビジネス環境におけるシステムの統合管理、運用プロセスの標準化（ITIL）、運用セキュリティの統制を支援します。

本商品は、Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionの機能に加えて、さらにグローバルサーバのライフサイクルを管理する機能を提供します。

【画面イメージ～ポータル画面～】

The screenshot displays the Systemwalker Centric Manager portal interface. A red callout bubble highlights a specific feature:

イベントの情報をまとめた画面部品（ガジェット）を標準提供

The interface includes several key components:

- イベント発生状況 (Event Occurrence Status):** A table showing recent error events.

発生	重要度	番号	日時	表示名	メッセージ
初回	重大	222	07/11 16:10	ノード001	AP Application E...
最新	重大	221	07/11 16:16	ノード002	AP Application E...
- イベント重要度/状態 (Event Severity/Status):** A summary table of event counts by severity and status.

	未確認	未対応	保留	調査中	合計
最重大	0	0	0	0	0
重要	2	0	0	0	2
警告	5	2	0	0	7
通知	0	2	0	0	2
合計	15	4	0	0	19
- イベント発生数推移 (Event Occurrence Trend):** A bar chart showing event counts over a 24-hour period.
- 種別ごとのイベント発生数 (Event Occurrence by Category):** A horizontal bar chart showing counts for categories like Security (5), System (5), Application (3), and Batch Job (2).
- 監視ツリーごとの稼働状況/イベント発生数 (Operational Status/Event Occurrence by Monitoring Tree):** A table showing operational status and event counts for different nodes.

ツリー種別	ツリー名	停止	監視停止	稼働	イベント
ノード監視	ノード監視	5	4	9	10
ノード管理	ノード管理1	1	3	5	9
	ノード管理2	0	0	0	0
	ノード管理3	2	0	3	5
	ノード管理4	0	2	2	4
- イベント発生数が多い機器 (Devices with High Event Occurrence):** A table listing the top devices by event count.

表示名	イベント
1 ノード001	9
2 ノード002	5
3 ノード003	4

- **運用管理サーバ**

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY

- **Open監視サーバ**

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン

- **運用管理クライアント**

FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- **クライアント**

FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- **運用管理サーバ**

Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

- **Open監視サーバ**

Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)

- **運用管理クライアント**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10

- **クライアント**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10

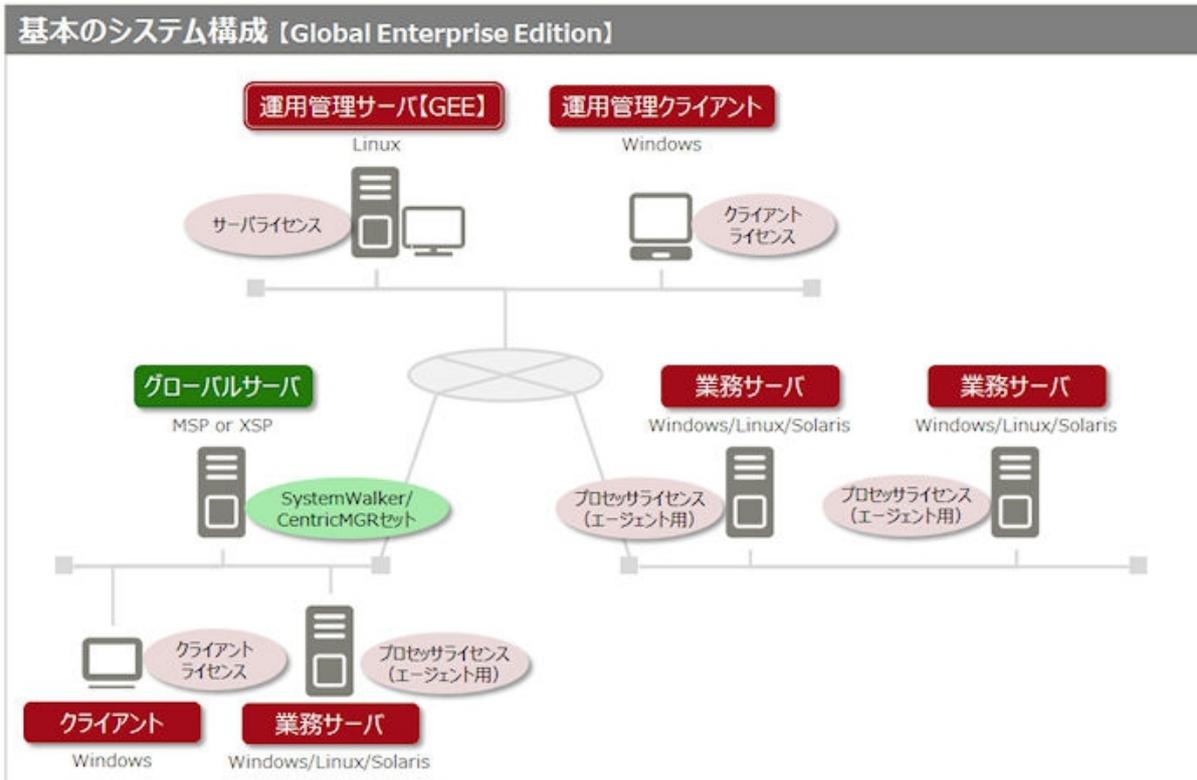
1. Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Editionの機能範囲

Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Editionでは、Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionの全機能に加えて、次項以降の機能を提供します。Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionの詳細は、Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionのソフトウェアガイドの「機能説明」を参照ください。

2. マルチプラットフォーム

(1) グローバルサーバのライフサイクル管理

- ・グローバルサーバのコンソールメッセージの集中監視ができます。
- ・SVPM-Sとの連携により、グローバルサーバの監視、電源制御ができます。
- ・グローバルサーバに対してコマンドを投入し、トラブル対応が行えます。



V17.0.2からV17.0.3の機能強化項目は以下のとおりです。

1. ハイブリッド監視機能の機能拡充

ハイブリッド監視機能に、パブリッククラウド (Amazon Web Services(AWS)、Microsoft Azure) のログを監視する機能を追加します。

- ・ オンラインマニュアル

- ・ オンラインマニュアルについては、留意事項の「オンラインマニュアルについて」を参照ください。

【メディア】

- ・ Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition メディアパック (64bit) V17.0.3

【永続ライセンス】

- ・ Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition サーバライセンス (1年間24時間サポート付) V17
- ・ Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition サーバ追加ライセンス (1年間24時間サポート付) V17
- ・ Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition 監視ホスト追加ライセンス (1年間24時間サポート付) V17

本商品の永続ライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

【サブスクリプションライセンス/サポート】

[サブスクリプションライセンス/サポート(月額払い)]

- ・ Systemwalker Centric Manager ノードライセンス (クラウドサービス監視用) (SL&S)

[サブスクリプションライセンス/サポート(まとめ払い)]

- ・ Systemwalker Centric Manager ノードライセンス (クラウドサービス監視用) (SL&S) 7年

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体(DVD)のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。

バージョンアップ/レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

2. サーバライセンスについて

(1) サーバライセンスは、運用管理サーバをインストールするサーバ1台あたり1本購入が必要です。複数のサーバに適用する場合は、台数分の購入が必要です。

(2) 1サーバライセンスで、グローバルサーバ上で動作するOS IV/MSPとOS IV/XSPシステムを合わせて4台まで監視できます。

1監視ホスト追加ライセンスで、グローバルサーバ上で動作するOS IV/MSPとOS IV/XSPシステムを合わせて4台まで追加して監視できます。

サーバライセンス商品の購入の考え方は以下のとおりです。

- ・ 運用管理サーバ(1台目) : サーバライセンス、監視ホスト追加ライセンス
- ・ 運用管理サーバ(2台目以降) : サーバ追加ライセンス、監視ホスト追加ライセンス

(3) グローバルサーバの監視に加えて、一台もしくは複数台のUNIXサーバまたはWindowsサーバ(以降、被監視サーバ)を管理する場合は、被監視サーバのプラットフォームに対応したSystemwalker Centric Manager Standard EditionまたはEnterprise Editionを別途購入してください。

(4) Open監視サーバは、インストールフリーです。

運用管理サーバがLinuxの場合、Open監視サーバを運用管理サーバと同じサーバに導入することも、Open監視サーバを運用管理サーバ以外の別のLinuxサーバに導入することも可能です。

(5) Open監視強化テンプレートを利用してハイブリッド監視を行う場合は、クラウドサービス(PaaS/SaaS)の監視対象数分のSystemwalker Centric Manager ノードライセンス(クラウドサービス監視用)を購入してください。

3. クライアントライセンスについて

(1) Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition直下の場合に限り、運用管理クライアント、および資源配付やインベントリ管理、リモート操作等を行うPCクライアントは、インストールフリーで導入できます。

(2) 被監視サーバに接続されるクライアントで、資源配付やインベントリ管理、リモート操作等のクライアント機能を使用する場合は、別売のSystemwalker Centric Manager クライアントライセンスを購入してください。

4. クラスタ運用時の購入方法について

運用管理サーバは、1:1運用待機の形態のみ動作可能です。

運用系ノード、待機系ノードを合わせて1システムと見なします。1システムごとにSystemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition サーバライセンスが必要です。待機系ノードのライセンスの購入は不要です。

5. ダウングレード使用について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用(本商品の旧バージョンを使用)する権利はありません。

対象のバージョンを使用する場合は、対象のバージョンに対応したライセンスをご購入ください。

6. 購入時の特約事項

ライセンス使用条件の特約事項について記載します。

永続ライセンスの契約におけるライセンス使用条件の特約事項

[サーバライセンス、サーバ追加ライセンスに適用されるライセンス使用条件]

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、ライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) 本製品により、お客様は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号によりお客様が対象プログラムをインストールしたコンピュータに、グローバルサーバ(別途富士通がお客様に販売したネットワークで接続されたグローバルサーバのシステムをいい、以下同じとします)を同時に4台まで接続することにより、当該のグローバルサーバを監視することができます。

(3) 上記(2)において、監視するグローバルサーバの数を追加する場合、お客様は、別途グローバルサーバの数の追加に関するライセンスを受ける必要があります。

対象プログラムをインストールするコンピュータにより富士通が別途提供する資料により指定されるクラウドサービス事業者により作成・提供されお客様が利用するサービス・リソース（以下「ノード」といい、クラウドサービス事業者がサービス・リソースに割り当てた識別子ごとにカウントされます）を監視する場合、お客様は、本製品とは別に、監視対象となるノードの数量分ライセンスを購入する必要があります。なお、お客様は、ノードの利用について自らの責任と費用負担でクラウドサービス事業者と契約を締結するものとし、富士通は、当該ノードの使用に起因しお客様に生じた損害につき一切の責任を負わないものとします。

(4) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(5) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

[監視ホスト追加ライセンスに適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

サブスクリプションライセンス/サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項

[ノードライセンス（クラウドサービス監視用）に適用されるライセンス使用条件]

適用なし

7. 購入例

以下のシステム構成の場合、購入対象商品と購入数は下記のようになります。

[システム構成]

- ・ 運用管理サーバ(2コア、1CPU 構成) : 1台
- ・ 運用管理クライアント(注) : 1台
- ・ クライアント(注) : 3台
- ・ グローバルサーバ : 2台
- ・ 業務サーバ(2コア、1CPU 構成) : 2台

注) Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition直下の場合に限り、運用管理クライアント、および(資源配付やインベントリ管理、リモート操作等を行う)PCクライアントは、インストールフリーで導入できます。

〔対象製品と購入数〕

- ・ Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition メディアパック (64bit) V17
必要数分
- ・ Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition サーバライセンス V17
1本
- ・ Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition メディアパック (64bit) V17
必要数分
- ・ Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス(エージェント用) V17
(2コア×1CPU×コア係数)×2台分
- ・ グローバルサーバ上で使用する機能に応じたソフトウェア

8. V13以降からのレベルアップについて

V13以降の本商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、最新バージョン/レベルを提供いたします。(お客様からのご要求が必要です。)

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン/レベル商品を改めてご購入頂く必要があります(価格の優遇はございません)のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、弊社営業/SEにお問合せください。

〔V13以降からのレベルアップ対象商品〕

- ・ Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition V13/V15

1. Systemwalkerファミリ製品との連携

データベースソフトOracleの稼働管理、トラブル分析、対処などを集中管理する場合、下記のいずれかのオプション製品の導入が必要です。

同一サーバ上にSystemwalker Centric Managerと以下のSystemwalker for Oracle製品を導入する場合には、64ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

〔オプション製品〕

- ・Systemwalker for Oracle Enterprise Edition V15.1.0以降
- ・Systemwalker for Oracle Standard Edition V15.1.0以降

2. マルチプラットフォーム対応

マルチプラットフォームの分散システムを管理する場合、各プラットフォームに対応したSystemwalker Centric Manager商品が必要です。

3. 高信頼システム対応

(1) クラスタ運用を行う場合、以下のクラスタシステムが必要です。

- ・PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.7まで
- ・PRIMECLUSTER HA Server 4.7まで
- ・PRIMECLUSTER Clustering Base 4.7まで

(2) LAN二重化の構成とする場合、以下の製品が必要です。

- ・PRIMECLUSTER GL 4.7まで

(3) サポートするクラスタシステムの運用形態は以下のとおりです。

- ・運用管理サーバをクラスタシステム上に導入する場合、1:1運用待機の形態のみ動作可能

(4) 共有ディスクに加え、ミラーリングディスクもサポートしています。

なし

1. Intel64環境での動作について

本製品は、以下のディストリビューションの環境で64ビットアプリケーションとして動作します。

- ・ Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)

2. WindowsデスクトップOS(64-bit)上での動作

クライアント/運用管理クライアントは、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- ・ Windows 10(64-bit)
- ・ Windows 11(64-bit)

注：Windows 32-bit On Windows 64-bit

3. 移行について

異なる動作OS上の環境との間で、Systemwalkerの各種資源および定義情報をバックアップ/リストアすることができません。Systemwalker Centric Managerの運用環境の再構築が必要です。

4. パッケージ構成について

Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition メディアパックには、以下のプログラムおよびマニュアルが同梱されています。

V17のメディアパックでは、DVD媒体で提供します。

〔Systemwalker Centric Manager メディアパック (64bit) Disc 1〕

- ・ マネージャプログラム(運用管理サーバ(64bit))
- ・ Open監視サーバ(64bit) (注)
- ・ オンラインマニュアル
- ・ ソフトウェア説明書

〔Systemwalker Centric Manager メディアパック (64bit) Disc 2〕

- ・ クライアントプログラム(運用管理クライアント(Windows(32bit))、クライアント(Windows(32bit)))
- ・ オンラインヘルプ
- ・ オンラインマニュアル
- ・ ソフトウェア説明書

(注) Open監視サーバについて

運用管理サーバがLinuxの場合には、Open監視サーバを同じサーバに導入することも可能です。または、Open監視サーバを別のLinuxサーバに導入することも可能です。

5. インストールについて

メディアパックは、DVDで提供されます。

インストールにはDVDドライブユニットが必要です。

DVDドライブユニットが搭載されていないマシンの場合は別途手配が必要です。

なお、DVDドライブユニットを入手できない場合は、ファイル共有を利用したネットワークインストールが可能です。(ただし、ローカルのDVDドライブユニットと比べて作業時間を要します。) インストールする場合、DVD装置が接続されているPRIMERGYまたはFMVのDVDドライブをNFSにてマウントし、ネットワーク経由でインストールを行います。

6. Windows Server 2019(64-bit)、Windows Server 2022(64-bit)をご使用になるうえでの注意事項について

インストールレス方式でWindows Server 2019、Windows Server 2022の業務サーバをSSH通信により監視する場合、その業務サーバのWindows Defenderの設定で、Windows Defender Exploit Guardを無効にしてください。

7. Windows 10、Windows 11使用に関する注意事項

(1) システム監視

- ・ イベントログへの出力文字列に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、そのメッセージを正しく監視できません。
- ・ ログファイル監視機能を使用して対象のログファイルの内容に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、そのログを正しく監視できません。
- ・ リモートコマンド発行におけるコマンド文字列（コマンド名、パラメタ）やその応答文字列に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、正しく実行できません。

(2) リモート操作

- ・ JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含むユーザ/グループでWindowsにログインし、リモート操作クライアントを除くリモート操作の機能を使用することができません。
- ・ リモート操作中にWindows 10/Windows 11の「ユーザの切り替え」を選択するとリモート操作が中断します。
- ・ Clientにセッションを接続した状態で、「ログオフ」操作を実行するとセッションが自動的に切断します。

(3) アクション実行

- ・ 画面を表示するようなアプリケーションは指定できません。

(4) 文字コード

- ・ JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を以下に指定しないでください。
 - コンピュータ名
 - GUI画面
 - コマンドのオプション
 - APIのパラメタ
 - Systemwalkerスクリプトのスクリプトファイル、入力データ

8. 32bit版/64bit版の組み合わせに関する注意事項

Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)、Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)、Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)上での製品組み合わせに関する注意事項です。

(1) 同一サーバ上に Systemwalker Centric Manager の運用管理サーバ と 以下のInterstage 製品を導入する場合には、64ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

- ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V12.0.0 以降
- ・ Interstage Application Server Standard-J Edition V12.0.0 以降

(2) グローバルサーバ上の帳票資源を資源配付で受信・中継する場合で、同一サーバ上にSystemwalker Centric Manager製品と以下の製品を導入する場合には、64ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

- ・ Linkexpress V5.0以降

9. クライアント

Linuxシステム上で動作するGUI画面はありません。サーバの環境設定ならびに監視コンソール用として、別途PC端末(AT互換機)に運用管理クライアントの導入が必要です。

以下の条件を満たすPC端末を用意してください。

- ・ CPU： 2.0GHz 以上、メモリ：4GB以上

10. リモート操作を行う場合の注意事項

ターミナルサービスとリモート操作の[Client]プログラムの両方に接続可能な環境の場合、リモート操作でセッションを開始した際、または実行中に、「画面転送を停止しています」という旨のメッセージが表示されて画面転送が停止される場合があります。

画面転送が停止されるタイミングおよび操作は以下のとおりです。

- ・オペレータAがターミナルサービスでコンソールセッションに接続する。その後、オペレータBがリモート操作で接続した時（セッション開始時）
- ・オペレータAがターミナルサービスでコンソールセッションに接続し、切断する。その後、オペレータBがリモート操作で接続した時（セッション開始時）
- ・オペレータBがリモート操作で接続中に、オペレータAがターミナルサービスでコンソールセッションに接続した時

リモートデスクトップでターミナルサービス（コンソールセッション）に接続すると、接続されたマシンは「コンピュータのロック」状態になります。この状態から画面転送を再開させるには、以下の対処を行ってください。

- 1) 接続先のローカルマシン上（リモート操作の[Client]プログラムが動作している端末上）で、コンピュータのロックを解除してください。（ほとんどの場合、この操作で画面転送が再開されます）
- 2) 手順1の対処で画面転送が再開されない場合は、接続先のローカルマシン上ですべてのユーザーをログオフした後、ログオンし直してください。

なお、ターミナルサービスでリモートセッションに接続した場合は、上記事象は発生しません。

11. リモートデスクトップ接続を行う場合の注意事項

(1) SystemwalkerコンソールなどのGUIの複数起動について

リモートデスクトップ接続で同一コンピュータに複数のユーザがログオンしても、そのコンピュータ上で起動できるSystemwalkerコンソールは1つだけとなりますので、リモートデスクトップ接続時には、接続先のコンピュータ上でSystemwalkerコンソールを操作することができません。

このほかにも、デスクトップ管理/インベントリ管理画面、ソフトウェア修正管理画面など、各GUIは1つだけ起動できます。

(2) 電源制御について

電源切断対象の端末にリモートデスクトップ接続を行っている状態で、クライアントの電源切断を行った場合、電源切断が中止されます。

強制的に電源切断を行いたい場合は、電源切断オプション指定する必要があります。

(3) 接続形態について

以下の操作については、リモートセッションで接続した場合は使用できませんので、コンソールセッションで接続してください。

- ・Systemwalkerのインストール
- ・バックアップ
- ・保守情報収集ツール
- ・全体監視サーバ/運用管理サーバのホスト名やIPアドレスの変更

(4) 利用できない機能

以下の機能は、リモートデスクトップ接続での使用はできません。

- ・環境作成
- ・リストア
- ・リモートコマンドAPI

12. 全体監視サーバの導入について

運用管理サーバに本製品が導入されたシステムにおいて、全体監視サーバの構築を行う場合、全体監視サーバにも本製品の導入を行う必要があります。

13. プラットフォームとバージョンの混在について

(1) プラットフォームやバージョンを混在して接続した場合について

使用できる機能は、それぞれのSystemwalker Centric Managerが共通でサポートしている範囲です。

(2) 運用管理サーバと部門管理サーバ/業務サーバの組み合わせについて

プラットフォームの混在環境において、マネージャ（運用管理サーバ）とエージェント（部門管理サーバ、業務サーバ）は、V/Lが異なっても接続できます。

本製品を、旧V/Lの運用管理サーバ、部門管理サーバ、または、業務サーバと接続した場合、旧V/Lの機能範囲で使えます。

(3) 運用管理サーバと運用管理クライアントの接続性について

運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一OS版の以下のバージョン間でだけ接続可能です。

〔V12.0系の場合〕

・運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一OS版の同一メジャーバージョン間でだけ接続可能です。旧マイナーバージョン(レベル)の運用管理クライアントから新マイナーバージョン(レベル)の運用管理サーバにも接続可能です。

〔V13.0.0以降V13.3.1以前の場合〕

・運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一OS版の同一メジャーバージョン間でだけ接続可能です。ただし、メジャーバージョンが同一であっても、旧マイナーバージョン(レベル)の運用管理クライアントから新マイナーバージョン(レベル)の運用管理サーバには接続できません。

〔V13.4.0以降の場合〕

・V13.4.0以降の運用管理クライアントは、V13.4.0以降の運用管理サーバにだけ接続できます。また、V13.4.0以降の運用管理サーバに接続できるのは、V13.4.0以降の運用管理クライアントだけです。接続できない場合は、接続時に運用管理クライアントに以下のメッセージが表示されます。

「このユーザは、指定した管理ドメインに対してログインを許可されていません。」

〔V15.0.0以降の場合〕

・運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一OS版の同一メジャーバージョン間でだけ接続可能です。ただし、メジャーバージョンが同一であっても、旧マイナーバージョン(レベル)の運用管理クライアントから新マイナーバージョン(レベル)の運用管理サーバには接続できません。

14. 他製品との共存について

Systemwalker Centric Managerと共存できないソフトウェアおよび共存時に注意が必要なソフトウェアは以下のとおりです。

〔共存できないソフトウェア〕

- ・運用管理クライアントとクライアントは、以下の製品とは共存できません。
 - Systemwalker Live Help Client
 - Systemwalker Live Help Expert
 - Systemwalker Live Help Connect
 - Systemwalker Desktop Patrolのリモート操作機能
- ・リモート操作機能を使用する場合は、以下の製品とは共存できません。
 - 他社のリモートコントロール製品
 - XenApp（MetaFrame および、Citrix Presentation Serverは、XenAppに名称が変更になりました。）

〔利用する機能により共存できない製品〕

- ・資源配付エージェントを使用する場合は、以下の製品と共存できません。
 - Systemwalker Operation Manager V13.2.0以前

〔インストール種別により共存できない製品〕

- ・運用管理クライアントの場合(接続する運用管理サーバのシステムコード系がUTF-8の場合)は、以下の製品と共存できません。
 - Interstage Application Server

〔共存時に注意が必要なソフトウェア〕

- ・運用管理サーバ、および、運用管理クライアントでは、以下の製品とは共存できません。
 - Interstage Application Server Enterprise Edition V10以降
 - Interstage Application Server Standard-J Edition V10以降
 - Interstage Web Server Express V11
 - Interstage Business Application Server Standard Edition V10.0以降
 - Interstage Business Application Server Enterprise Edition V10.0以降
 - Interstage List Works Enterprise Edition V9.0以降
 - Interstage Shunsaku Data Manager Enterprise Edition V9以降
 - ・Linux OSのLinux Security Module (以下LSM) インタフェース機能を使用しているソフトウェアを導入している環境で、サーバアクセス制御機能は利用できません。
- ただし、サーバアクセス制御機能を利用しなければ、LSM使用製品との共存は可能です。
- LSMは、アクセス制御、アンチウィルス、バックアップ機能を提供するソフトウェアで使用していることがあります。LSMを使用しているソフトウェア製品の情報については、Systemwalkerのホームページを参照してください。

15. ハードウェア資源について

(1) モバイル端末

Systemwalker Webコンソール (モバイル版) を使用するためには、以下のハードウェアが1つ以上必要です。

〔iモード端末〕

- ・すべてのiモード対応携帯電話

〔上記以外のモバイル端末〕

- ・HTML2.0以上に準拠したブラウザが動作するモバイル端末

(3) 監視

イベント監視でアクション定義として指定したアクションの種類により、運用管理クライアントに以下のハードウェアが必要です。

〔音声による通知を行う場合〕

- ・WAVEオーディオカード (機種によりオーディオカードを搭載できない場合があります。)

(3) コンソール操作制御

コンソール操作制御とSMARTACCESSとを連携した認証を行い場合、運用管理クライアントに以下の認証装置が必要です。

〔SMARTACCESSがサポートする認証装置〕

- ・スマートカード
- ・ICカード (Felica方式)
- ・指紋センサー
- ・静脈センサー

(4) 障害復旧

リモートからクライアントの電源制御を行う場合、以下の条件を満たすハードウェアが必要です。

〔クライアントの電源投入〕

Wakeup on LANをサポートしている機種である。かつ、

Wakeup on LANをサポートしているLANカードが実装されている。かつ、

Wakeup on LANによる電源投入をBIOSレベルで有効になっている。

〔クライアントの電源切断〕

APM (Advanced Power Management) または、

ACPI (Advanced Configuration & Power Interface) をサポートしている機種である。かつ、

Windowsからの電源切断が可能になっている。

(5) システム環境

- ・以下のシステムを監視できます。
 - グローバルサーバ (FUJITSU Server GS21)
- ・NIPメッセージ、システムダンプのメッセージ、またはAVM/EXのメッセージを監視する場合は、以下の集中監視装置が必要です。
 - SVPM-S(GS21 1600/1400モデルグループ以降)
- ・監視システムとグローバルサーバとのLAN環境は、DSLINKまたはFSLINKで構成されたネットワークが必要です。また、遠隔地から監視・操作する場合は、監視システムとグローバルサーバとのLANを回線で接続します。
- ・SVPM-Sと連携する場合は、監視システムを監視用接続機構に接続し、その接続LANは監視専用のLANにしてください。

16. ソフトウェア資源について

(1) コンソール

Systemwalker Webコンソールを使用する場合、WWWブラウザが必要です。

以下のWWWブラウザを使用することをお勧めします。

〔Linux〕

- ・firefox (Systemwalker Webコンソール(互換)の場合のみ)

〔Windows〕

- ・Microsoft Internet Explorer 11(注)
- ・Microsoft Edge(Internet Explorerモード)

注) Internet Explorer 11上での動作

- 新しいWindows UIに対応したInternet Explorer 11でWebコンソールは使用できません。デスクトップ版Internet Explorer 11を使用してください。
- ブラウザで表示されるプルダウン項目の文字が一部欠けることがあります。
- 運用状況画面で表示される円グラフの影が表示されないことがあります。

(2) 監視

a) ネットワーク/システムの監視

トラップの監視、MIB監視の監視対象となるノードでは、以下のソフトウェアが動作している必要があります。

- トラップの監視、MIB監視を使用したネットワーク/システムの監視
 - ・SNMPエージェント
 - ネットワーク性能の監視
 - ・MIB IIをサポートするSNMPエージェント

RMON-MIBをサポートするSNMPエージェント(RMONとして監視する場合)

- システム性能の監視
 - ・SNMPエージェント

b) 管理者への通知

イベント監視でアクション定義として指定したアクションの種類により、以下のソフトウェアが必要です。

- 電子メール
 - ・受信側にE-Mail受信用のソフトウェア
- 音声通知
 - ・32bit OSが動作するクライアント上で、Microsoft Speech API (SAPI 5.1以下)対応の音声合成エンジンが実装されている製品

c) イベント監視の条件定義

「イベント監視の条件定義」のCSVファイルをEvent Designerツールで変更、参照する場合、以下のソフトウェアが必要です。

- ・ Microsoft Excel 2016 (32ビット版/64ビット版)
- ・ Microsoft Excel 2019 (32ビット版/64ビット版)
- ・ Microsoft Excel 2021 (32ビット版/64ビット版)
- ・ Microsoft Excel for Office 365 (32ビット版/64ビット版)

(3) コンソール操作制御

コンソール操作制御でSMARTACCESSと連携して認証装置を使用する場合は、運用管理クライアントに以下のソフトウェアが必要です。

- ・ SMARTACCESS/Basic (ハードの添付ソフトウェア)
- ・ SMARTACCESS/Premium V5.5まで

(4) 監査ログ分析

監査ログ分析機能を使用する場合、以下のソフトウェアが必要です。

〔運用管理サーバの場合〕

- ・ Interstage Navigator Server Enterprise Edition V9.6

(5) 仮想環境での運用について

Systemwalker Centric Managerの仮想環境での運用を行う場合、以下のソフトウェアが必要です。

- ・ Linux Virtual Machine 機能
- ・ VMware vSphere 7.0
- ・ VMware vSphere 8.0
- ・ WindowsのHyper-V

(6) ハード監視制御

ハード監視制御の機能を利用する場合、ソフトウェア製品PC-Xが必要です。

ソフトウェア製品PC-Xには、サーバ上で動作するPC-XとPC上で動作するPC-Xがあります。

ハード監視制御の機能を使用する場合、運用管理クライアントにPC上で動作するPC-Xを導入することで、ハード監視ウィンドウを使用できます。

〔運用管理クライアントに導入が必要なPC-XのV/L〕

- ・ PC-X V20L35以降

(7) ServiceNow連携の対応バージョン

ServiceNow連携機能で連携可能なServiceNowのバージョンは以下のとおりです。

ただし、ServiceNowのサポートが終了になった場合、本機能のサポートも終了します。

- ・ Vancouver
- ・ Washington DC
- ・ Xanadu
- ・ Yokohama

17. オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルは以下のとおりです。

- ・ Systemwalker Centric Manager マニュアル体系と読み方
- ・ Systemwalker Centric Manager リリース情報
- ・ Systemwalker Centric Manager 必須パッケージ 【Linux】
- ・ Systemwalker Centric Manager 解説書
- ・ Systemwalker Centric Manager 導入手引書
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編

- ・ Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 ソフトウェア修正管理機能編
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 ユーザーズガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Clientガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Connect管理者ガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 グローバルサーバ運用管理ガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編（互換用）
- ・ Systemwalker Centric Manager Interstage,Symfoware,ObjectDirectorとの共存ガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
- ・ Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書
- ・ Systemwalker Centric Manager 高信頼化適用ガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド（連携型）
- ・ Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド（独立型）
- ・ Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド UNIX編
- ・ Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド Windows編
- ・ Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド DMZ編
- ・ Systemwalker Centric Manager Open監視 ユーザーズガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager クラウド監視ユーザーズガイド
- ・ Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent トラブルシューティングガイド 監視編
- ・ Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Software Delivery トラブルシューティングガイド 資源配付編
- ・ Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集
- ・ Systemwalker Centric Manager 用語集
- ・ Systemwalker Centric Manager Interstage Application Server 運用管理ガイド

18. IPv4ネットワーク / IPv6ネットワークの混在環境について

IPv4ネットワーク / IPv6ネットワークの両方を利用できます。

ただし、サーバ階層の上位にV13.5以前が存在するシステム構成の場合は、IPv6ネットワークは利用できません。

19. IPv6環境での動作について

(1) IPv6通信プロトコルのサポートについて

Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Editionにおける、IPv6通信プロトコルのサポート機能は、被監視システムがグローバルサーバの場合サポート対象外になります。該当の被監視システムの場合、従来どおりIPv4の通信プロトコルをご利用ください。

(2) 運用管理可能なIPv6アドレスの種類

Systemwalker Centric Managerで運用管理することができるIPv6アドレスの種類は、以下のとおりです。

- ・ グローバルアドレス
- ・ ユニークローカルアドレス

(3) IPv6ネットワークを利用する場合の、Systemwalker Centric Managerのバージョンレベルについての注意事項

〔運用管理サーバのバージョンレベル〕

IPv6ネットワークを利用する場合は、運用管理サーバのバージョンレベルをV13.6.0以降としてください。

〔業務サーバ、およびクライアントをIPv6環境で運用する場合〕

V13.6.0以降のSystemwalker Centric ManagerをIPv6ネットワークで利用する場合、部門管理サーバ、業務サーバ、およびクライアントは、以下のバージョンレベルで運用する必要があります。

・業務サーバをIPv6環境で運用する場合、運用管理サーバへの中継サーバとなる部門管理サーバもSystemwalker Centric Manager V13.6.0以降である必要があります。

・クライアントをIPv6環境で運用する場合、運用管理サーバへの中継サーバとなる部門管理サーバ、業務サーバもSystemwalker Centric Manager V13.6.0以降である必要があります。

〔アクション（ポップアップ、音声、ショートメール）を実行する場合〕

アクション（ポップアップ、音声、ショートメール）を実行する際、アクションを要求するホストと、実際にアクションを実行するホストが同一でない環境にすることができます。

このような環境で、IPv6通信を利用してアクションを実行する場合、すべてのサーバ、およびクライアントに、V13.6.0以降のSystemwalker Centric Managerをインストールしてください。

(4) IPv4アドレス、IPv6アドレスのみを持つ、サーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視する場合の注意事項

・IPv6アドレスのみを持つサーバ（運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ）から、IPv4アドレスのみを持つサーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視することはできません。

・IPv4アドレスのみを持つサーバ（運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ）から、IPv6アドレスのみを持つサーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視することはできません。

(5) IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータで動作させる場合の注意事項

〔IPバージョン決定について〕

一度使用するIPバージョンが決定すると、該当のIPバージョンで処理を続けます。

〔IPバージョンの決定方法について〕

ホスト名からIPv4とIPv6両方のIPバージョンのIPアドレスが解決できる場合、Systemwalker Centric Managerは、以下のようにswsetuseipコマンドで設定したIPバージョンで通信を行います。

・swsetuseipコマンドで"IPv4"が設定されている場合、IPv4アドレスで通信を行います。

・swsetuseipコマンドで"IPv6"が設定されている場合、IPv6アドレスで通信を行います。

ただし、以下の機能については、フレームワークデータベースに登録されているノード情報を元に通信を行うため、swsetuseipの設定に関わらず、代表インタフェース、または業務インタフェースを元に通信を行います。

・ネットワークの監視

・Systemwalkerコンソールより起動されるコマンドと画面の一部

〔運用管理サーバが所属するサブネットフォルダについて〕

IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータ上の運用管理サーバでは、フレームワークデータベース作成時に運用管理サーバが所属するサブネットフォルダが、swsetuseip（IPバージョン設定/表示コマンド）コマンドで指定したIPバージョンにより異なります。

・IPv4が設定されている場合、IPv4のサブネットフォルダが作成され、運用管理サーバはIPv4のサブネットフォルダに所属します。

・IPv6が設定されている場合、IPv6のサブネットフォルダが作成され、運用管理サーバはIPv6のサブネットフォルダに所属します。

20. Live Help（リモート操作機能）の留意事項

FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS、FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン、パブリッククラウド上で利用する場合は、下記の留意事項があります。

・FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS、FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン、パブリッククラウド上にリモート操作クライアント機能をインストールする場合：

サイレントインストールでリモート操作クライアントの起動方式を「サービスとして起動 - 自動起動する」としてインストールする必要があります。

・FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS、FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン、パブリッククラウド上でリモート操作機能を使用する場合：

リモートデスクトップ接続で利用する場合、注意事項があります。

詳細は以下のマニュアルを参照ください。

- Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 ユーザーズガイド
- Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Clientガイド

21. サーバアクセス制御機能に関する注意事項

運用管理サーバでは、部門管理サーバ/業務サーバ(ともにWindows)に対するセキュリティポリシーの設定を行うことはできますが、運用管理サーバ自身のサーバアクセス制御はサポートしていません。

22. VMware ESXi 6.5以降の仮想マシンの監視について

仮想ホストと仮想マシンの関係を検出して作成する監視マップ(仮想マシンの監視マップ)を作成することができません。

お客様向けURL

- ・ **ソフトウェア：富士通（Systemwalker Centric Manager）**

製品概要や動作環境、導入事例、価格等、製品紹介資料を幅広く提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/centricmgr/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）**

価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）**

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（マニュアル）**

富士通のソフトウェア製品に添付されているマニュアルが閲覧できます。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/manual/>